

観世流・半能 「田村^{たむら}替装束^{かえしつぞく}」

和泉流・狂言 「雁大名^{がんだい みょう}」

観世流・能 「菊慈童^{きくじ どう}遊舞之樂^{ゆうぶの がく}」



おもて どうじ
面：童子

小牧山薪能

小牧山文化事業 入場無料

KOMAKI-YAMA
TAKIGINOH

令和4年9月17日(土)

会場／小牧山 史跡公園

(雨天の場合：小牧市市民会館)

※演能中に雨が降った場合は中止になります。

観覧席開場 / 午後4時

オープニング
セレモニー / 午後5時

薪能開演 / 午後6時

主催／小牧市・小牧市教育委員会 企画運営／小牧山薪能実行委員会

共催／小牧市観光協会、こまき市民活動ネットワーク、こまき市民文化財団

後援／中日新聞社、小牧市文化協会、小牧商工会議所 協力／公益社団法人能楽協会 名古屋支部

問合せ先／文化・スポーツ課 (0568) 76-1166 (当日の問合せ先／小牧市役所代表 0568-72-2101)

※カメラ、ビデオ、録音機器、携帯電話等による撮影・録音・録画は固くお断り致します。

※薪能会場内への酒類の持込、水分補給以外の飲食はできません。

※本イベントは、愛知県に感染防止安全計画を提出のうえ、各種ガイドラインに基づき開催予定です。

ご来場者様及び関係者の健康・安全確保のため、イベントの中止や一部内容の変更を行う場合があります。

ご来場の際は、マスク着用(不織布推奨)をお願いします。また、発熱等体調不良の場合は来場を控えて

いただきますようお願いいたします。

キミと一緒に、育っていきたい
Komaki

番組

(午後)

| | |
|------------|---|
| 5:00 | オープニングセレモニー 名古屋市長東高校能楽研究部 仕舞 小牧市謡曲連盟 仕舞 |
| 5:45 | 火入れ式 |
| 6:00 | 観世流・半能「 田村 」 替装束 |
| シテ | (坂上田村麿) 久田 勘 鷗 ワキ (旅僧) 橋本 宰 幸 アイ (清水寺門前ノ者) 井上 松 次 郎 笛 後取 鹿 藤 嘉 津 一 小鼓 河 村 裕 義 高 大鼓 山 田 若 川 中 義 紀 後見 梅 若 川 中 義 紀 地謡 山 田 若 川 中 義 紀 祖父 江 路 洋 子 下山 祖 星 瀬 戸 井 村 邦 |
| 6:30 | 和泉流・狂言「 雁大名 」 がんだいみょう |
| シテ | (大名) 野口 隆 行 アド (太郎冠者) 津 健 大 郎 (雁屋) 野 村 又 三 郎 後見 伴 野 俊 彦 |
| — 休憩 10分 — | |
| 7:00 | 観世流・能「 菊慈童 」 遊舞之楽 |
| シテ | (慈童) 久 田 三 子 ワキ (官人) 橋 本 正 友 笛 山 村 友 昭 小鼓 船 戸 真 介 大鼓 河 村 洋 輝 後見 加 藤 川 宜 長 太 後 見 下 今 沢 美 和 地謡 山 田 中 山 義 雅 山 中 山 松 本 幸 親 本 田 吉 沢 勲 伊 藤 裕 貴 |
| 7:45 | 終演予定 |

※出演者は一部変更となる場合があります。ご了承ください。

半能 田村(たむら)

春の季節です。東国の僧が都見物で清水寺にやって来ます。境内の桜の盛りに感心してきますと、一人の童子が現れ、木陰を掃き清めます。僧が寺の来歴を聞きますと、童子は坂上田村麿と賢心・行叡居士の縁起を語り、行叡居士とは観音菩薩の生まれ変わりであると話します。そして、辺りの名所を尋ね、共に花見をしています。僧は童子の常人ならぬ様子に、名を問いますと、童子は、私の帰る先を御覧なさいと言ひ残して、田村堂へと入っていきます。(前半)

僧は清水寺門前の者に田村麿の供養を勧められ、夜もすがら桜の木陰で経を読んでいます。武將姿の田村麿が現れ、僧の読誦に感謝します。そして、自分が東夷を平らげ、悪魔を鎮め、天下泰平の忠勤をしたのも、清水寺の仏力だと述べ。また、勅命を受けて、鈴鹿の賊を討伐するべく軍兵を進めた時、千手観音が現れ、その助勢で敵を倒すことができた、観音のありがたさを語ります。(後半)

都での訴訟事が叶い目出度く帰郷の運びとなった田舎大名は、在京中世話になった人へ振舞う馳走を買い付けて来るよう、召使(太郎冠者)に命じます。出掛けた召使は雁屋で初雁(はがん)を見つけたのも代金は持ち合わせず、また掛売での求めにも応じてもらえず…。《初雁》とは、大陸から東北地方などに越冬のため飛来する雁の群れを指し、その名はかつて上野―青森間・盛岡―函館間を駆け抜けた特急「はつかり」の由来にもなっています。また秋を代表する季語として取り上げられるなど、中世では季節を感じる高級食材として珍重され、持て成しの格好の素材でした。当時は鳥類も魚屋で商いされていた史実から、「肴屋町」という地名が狂言に登場します。

「雁盗人」の題名で上演されていた時代もあり、大蔵流では近世庶曲となっているそうです。雁の表現にも大蔵流は洞烏帽子、和泉流は羽箒(または大きな羽根)を用いて演じています。

狂言 雁大名(がんだいみょう)

いたします。

能 菊慈童(きくじどう)

古代中国の魏の文帝の時代、酈縣山(れつけんざん)の麓から薬水が湧き出るといふ話を聞き、宣言により、勅使が源を訪ねるべく、山に出かけます。一行は菊の花の咲き乱れた山中の庵に、童子を見つけ、狐狼・野干の住処と思われる山中に居る、化生の者かと思ひます。童子は、貴方こそ化生の者でしようと言ひ、自分は周の穆王(ぼくおう)に仕えていた慈童だと答えま

す。勅使は、周の時代は700年も前のことだと驚き、やはり化生の者だと怪しみます。慈童は、二句の偈を書き添えた穆王の枕を見せ、菊の葉に妙文を写し置くと、葉の露が不老不死の薬となつて、それを飲んでいたので、七百歳になつても若々しくしているのだと答え、楽しく「楽(がく)」を舞います。そして、この御代も永く栄えるようにと、長寿を君に捧げ、山中の仙家に帰っていきます。

今回は遊舞之楽でさらに華やかな演出となっております。

出典 能「田村」(http://hisadakan-oh.com/story/069_tamura.html)
能「菊慈童」(http://hisadakan-oh.com/story/077_kikujidou.html)
狂言「雁大名」(<https://kyogen.co.jp/outline/雁大名>)

交通アクセス ※当日は「小牧駅～小牧山」の会場間を結び無料シャトルバスを運行しますので、ご利用ください。(午後2時30分～午後10時30分)約10分間隔で運行します。

| | |
|-----------------|---|
| 名鉄バス | 「小牧市役所前」停留所すぐ |
| こまき巡回バス | 「小牧山前」停留所すぐ |
| 名鉄小牧線(名古屋市営地下鉄) | 「平安通駅」で、地下鉄上飯田線・名鉄小牧線へ乗り換え「小牧駅」 |
| 名鉄犬山線 | 「岩倉駅」下車、名鉄バス(約20分)「小牧市役所前」停留所すぐ |
| 名鉄高速バス(近距離高速線) | 名鉄バスセンター(名古屋)乗車(約40分)栄乗車(約25分)「小牧市役所前」停留所すぐ |
| 東名高速道路・名神高速道路 | 「小牧インター」出口から車で約5分 |
| 国道41号 | 小牧市内「弥生町」の交差点を東へ約600m |

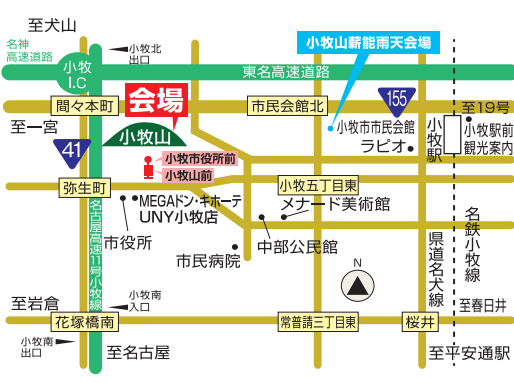
※駐車場は台数に限りがあります。
※飲酒運転は絶対におやめください。飲酒される方は公共交通機関をご利用ください。

同日開催 こまき信長夢夜会



史跡小牧山は織田信長が4年間を過ごし、天下統一への足がかりとした信長ゆかりの地です。その小牧山に信長の秋の夜会を再現します。会場内を彩る照明やお花、お酒、グルメ、JAZZ、情熱的なフラメンコのステージ、そんな「おもてなし」の数々を皆様も信長に招かれた客人の気分でもぜひ楽しんでください。

詳しくは <https://www.city.komaki.aichi.jp>
9月17日(土) 午後3時から午後10時
会場 **小牧山 史跡公園** 雨天中止
小牧市堀の内一丁目1番地
問合せ先 小牧市シティプロモーション課(0568)76-1172
(一社)小牧市観光協会 (0568)39-6123[当日]



))) 音声ガイドンス)))
能のセリフや場面の解説を音声ガイドンスする、イヤホン付FMラジオを貸出しします。

解説演目 観世流・半能「田村」 観世流・能「菊慈童」

料金 **500円(レンタル料)+1,500円(保証金)**
※保証金はラジオ返却時に返金します。

申込方法 当日、新能FM ガイドンスラジオ貸出所(小牧山 史跡公園内)にてお申込みください。

※ガイドンスは台数に限りがあります。
※都合により、内容を変更する場合がありますのでご了承ください。